

論文審査の結果の要旨

報告番号	甲口 甲口保	第 439 号	氏名	藤本 けい子
	乙口 乙口保 口修			
審査委員	主査 河野 文昭 副査 吉村 弘 副査 松香 芳三			

題目 Tongue thickness and its clinical significance

(舌の厚みとその臨床的意義)

要旨

歯科治療における長期的目標は、口腔機能の維持向上により患者の健康寿命を延伸させ、QOLを向上させることである。本研究では口腔機能の維持向上に大きく関与している舌に着目し、歯科受診時に簡便に測定可能な舌の厚みと種々の口腔機能との関連性を検討することにより、口腔機能の評価や維持向上における舌の厚み測定の臨床的意義を明らかにすることを目的とした。

本研究は徳島大学病院臨床研究倫理審査委員会の承認（受付番号2225）のもと実施した。高齢者106名を対象に、超音波診断装置を用いて舌の厚みを測定した。基本属性として年齢、BMI、固定性補綴装置のポンティックおよびインプラント補綴を含む有床義歯以外の残存機能歯数を記録した。舌の評価として舌圧、舌突出圧、舌運動能を測定した。その他の口腔機能として頬圧、咬合力、口腔水分量を測定した。解析にはMann-Whitney U検定、ロジスティック回帰分析を用いた。

本研究より以下の結果が得られた。オーラルディアドコキネシスの/ka/は舌の厚みの厚い群の値が有意に大きく、頬圧は薄い群の値が有意に大きくなった。また舌の厚みは、/ka/、頬圧、機能歯数と関連しており、/ka/とは負の相関が認められた。舌の厚みは舌の運動能を反映しているとは限らず、舌機能は舌の位置や体積・質量変化による影響も受けると推測されることから、舌機能の評価には複数の評価を併用して行う必要があることが示唆された。

今回の研究から、健常高齢者において舌の厚みは舌運動能を反映しているとは限らず、逆に舌の厚みと舌運動評価のひとつである/ka/との負の関連が示された。舌機能の評価においては複数の評価方法を併用して行う必要があり、舌の厚みの新たな臨床的意義の可能性が示唆された。よって本研究は、博士（歯学）の学位に相応しいと判断するものである。